

山岡議員の賛成討論

意見書案第8号 生活保護基準額の引き下げの撤回を求める意見書について、賛成の立場から討論します。

生活保護は、すでに2013年の見直しで最大10%削減されています。そのうえに今回、最大5%削減をするというのです。「低所得者世帯の生活水準が下がった」というのなら、生活保護を削るのではなく、低所得者世帯の生活を支援することこそ政治の責任です。生活保護の捕捉率。つまり利用の要件がある人のうち実際に利用できる人の割合は、2割から3割とされています。こうした生活保護行政の欠陥にこそメスを入れるべきです。

生活保護の削減は、広範な国民の暮らしに影響を与えます。住民税、保育料、介護保険料、就学援助など47の分野に連動し、低所得者世帯の生活悪化に拍車をかけることとなります。これでは際限のない貧困の悪循環をもたらすこととなります。

いうまでもなく、生活保護は、憲法25条に明記された国民の生存権を保障する、最後のセーフティネットです。今回の削減予算は、約160億円とされています。政府の財源のことをいうのなら、いわゆる「思いやり予算」など米軍経費の来年度増加分、195億円をあてれば、むしろ「おつり」がきます。いま、政府が「思いやる」べきは、どちらか。その答えはあまりにも明瞭ではありませんか。

よって、今回の生活保護基準の引き下げの撤回を強く求める本意見書案に賛成するものです。

議員各位のご賛同、ご理解を得て、本意見書が採択されますよう、お願い申し上げます。賛成討論とします。